God With Us

Part 3: A King in place of THE KING.
1st and 2nd Samuel

Message 17- The Song of David's Life
Psalm 18 (also 2 Samuel 22)
June 12, 2016

神は我らと共に
パート３：　王（神）に代わる王
サムエル記第一・第二

メッセージ１７－　ダビデの人生の歌
詩篇１８篇（及び第二サムエル２２章）

はじめに

ダビデはイスラエルの「甘い詩編作者」として知られていた（サムエル記第二２３：１）。戦士であり、王である他、音楽家であり、作詞家でもあり、ヘブライ語の歌集の半分を構成した（詩篇１５０篇のうち７５篇がダビデのものである）。２３篇の「羊飼いの詩」はダビデの詩として最もよく知られているが、１８篇が最も重要であると考えられる。その個所は、第二サムエル２２章にもダビデの人生の詩の要約として記されている（実際、ダビデの物語の中に唯一含まれている箇所である）。ダビデの物語の終わりに配置してあるということは、ダビデの神の体験に相応しい要約である。国家も、また、その素晴らしい神を知るために、ダビデの神への壮大な賛美と感謝の曲として親しまれている。ダビデは神の素晴らしい属性や御業についてを詩にすることによって、神を表示した。**このゆえに主よ、わたしはもろもろの国民のなかであなたをたたえ、あなたのみ名をほめ歌います。（詩篇１８：４９）**

ダビデは、神のご臨在と働き働きについて具体的に賛美し感謝を捧げる方法を教えている。ダビデが選んだ言葉は、神とダビデ自身の非常に個人的な体験に基づくものであった。私たちの人生の中には、ダビデが描写したような文字通りの「敵」は存在しないかもしれないが、私たちには非常に現実的な対戦対象が存在する。ダビデのように、私たちも人生の様々な試練に神を招き入れ、神の介入と保護に賛美と感謝を捧げることを学ぶことが出来る。

神はダビデの岩：　１８：１－６

ダビデは頻繁に、死の綱はわたしを取り巻いているように思えた（詩篇１８：４）。若年で油を注がれて以来、最初の１５年間、サウルは繰り返しダビデ殺害を試みた。それから２０年間のイスラエル国家統治の中で、他の国々は敵対し、戦いを挑んだ。ダビデは神の継続的な保護無しに生き延びることは出来なかった。この理由から、ダビデは安全で避けどころであり岩であられる神への愛敬を歌い始めた。

わが力なる主よ、わたしはあなたを愛します。主はわが岩、わが城、わたしを救う者、わが神、わが寄り頼む岩、わが盾、わが救の角、わが高きやぐらです。わたしはほめまつるべき主に呼ばわって、わたしの敵から救われるのです。（詩篇１８：１－３）

主はわが「岩」と表現したダビデは二つの思考を込めている。一つ目は、敵の脅迫の上に立つ安全な場所である。詩篇４０篇でダビデは次のように語っている：**主はわたしを滅びの穴から、泥の沼から引きあげて、わたしの足を岩の上にお**

き、わたしの歩みをたしかにされた。（詩篇４０：２）二つ目の思いは、岩の洞窟や隠れ場である。詩篇１８篇１－３節で、主が我が岩、我が城、櫓、避難所とダビデが神を賛美した箇所の意味がそうである。ダビデは長きにわたり荒野の中でサウルから逃亡し続け、岩の洞窟、櫓に隠れるよう強いられた体験を思い返していたのである（すなわち「岩」）。神はそこで敵どもの殺意の手からダビデをお救いになった。

こうしてダビデはその所を去り、アドラムのほら穴へのがれた。（第一サムエル２２：１）

ダビデは荒野にある要害におり、またジフの荒野の山地におった。サウルは日々に彼を尋ね求めたが、神は彼をその手に渡されなかった。（第一サムエル２３：１４）

あなたは今どんな敵に立ち向かっておられるでしょうか？神の強さを必要としているあなに内在する弱さでしょうか？今神の御手による備えを必要としている何らかの損失でしょうか？あなたを攻撃して来る人でしょうか？あなたは神の御手の内に「隠れ場」を見出しておられるでしょうか？詩篇６２篇において、ダビデは困難な時の避難所の岩として、神のみを信頼するよう励ましている。神こそわが岩、わが救、わが高きやぐらである。わたしは動かされることはない。わが救とわが誉とは神にある。神はわが力の岩、わが避け所である。民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。そのみ前にあなたがたの心を注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。（詩篇６２：６－８）あなたは生活の中の保安として誰を、または、何を信頼しておられるでしょうか？あなたはダビデと共に神が避難所の岩であられると宣言することがでるでしょうか？

神はダビデにとっての戦士であられた：　１８：７－１９

ダビデはイスラエルの周囲の敵のすべてを征服した偉大な戦士として知られていた。しかし、ダビデの人生の闘いの中で実際にダビデを守り勝利を与えて下った真の戦士は神であられたということを速やかに認めた。

わたしの強い敵と、わたしを憎む者とからわたしを助け出されました。（詩篇１８：１７）

私たちの人生の中に介入してくださる神の手段に制限は無い。ダビデはここで、天から神が戦場に突入してくださる光景を鮮明に描写ている。神がどのように登場してくださったかを説明するために比喩を用いている：荒々しい地震のような、火山噴火、恐ろしい雷雨、破壊的な雹、圧倒的な洪水。（実際、文字通り神は戦いに介入してくださった。）

そのとき地は揺れ動き、山々の基は震い動きました。主がお怒りになったからです。煙はその鼻から立ちのぼり、火はその口から出て焼きつくし、炭はそれによって燃えあがりました。主は天をたれて下られ、暗やみがその足の下にありました。主はケルブに乗って飛び、風の翼をもってかけり、やみをおおいとして、自分のまわりに置き、水を含んだ暗い濃き雲をその幕屋とされました。そのみ前の輝きから濃き雲を破って、ひょうと燃える炭とが降ってきました。主はまた天に雷をとどろかせ、いと高き者がみ声を出されると、ひょうと燃える炭とが降ってきました。主は矢を放って彼らを散らし、いなずまをひらめかして彼らを打ち敗られました。主よ、そのとき、あなたのとがめと、あなたの鼻のいぶきとによって、海の底はあらわれ、地の基があらわになったのです。（詩篇１８：７－１５）

時に、私たちの手に負えない強い敵を対処するために、神に力強く現れていただかなくてはならないことがある。また、ある時は、私たちが傷ついたり損失してしまった時に、神に現れていただき、穏やかに優しく慰めていただかなくてはならない時がある。また、ある時は、知恵ある助言者として方向を示し、助言を与えていただくために来ていただく必要がある。また、愛に溢れる父として、私たちを戒め、人格形成のために現れていただく必要がある。私たちがしなくてはならないことは、主を呼び求め、私たちの人生に関わっていただくようより頼むことである。私たちに現れて介入手段を選ばれるのは神である。

もし、あなたが神の助けを求めておられ、神があなたの人生の中に働いてくださっているなら、あなたが体験されてきた苦境苦難を振り返ってみてください。神はどのように現れてくださって来たでしょうか？誰かが突然立ち止まり助けてくれたというような出来事が「起こった」ことが無かったでしょうか？突然何かを思い出すことが出来たお陰で惨事から免れたような経験は無かったでしょうか？困難の最中に友達から「突然」電話があったこと等なかったでしょうか？解決法がどこからともなく訪れたことは無かったでしょうか？神は常に私たちの人生の中で働いてくださっています。私たちが頻繁にそれらを見逃してしまい、感謝を捧げることに怠っているのです。神がどのようにあなたの人生に現れてくださっているか熟考してみてください。人生に現れてくださっているあなたの神を描写するために、どの比喩を用居ることが出来るでしょうか？

神はダビデの判事：　１８：２０－２７

この箇所の描写によると、ダビデの人生の初期で重大な失敗を繰り返す前の時代のように聞こえる。ダビデは生活の中で自身の義と主の恩恵との間に強い接点を確立している。

主はわたしの義にしたがってわたしに報い、わたしの手の清きにしたがってわたしに報いかえされました。わたしは主の道を守り、悪意をもって、わが神を離れたことがなかったのです、そのすべてのおきてはわたしの前にあって、わたしはその定めを捨てたことがなかったのです。わたしは主の前に欠けたところがなく、自分を守って罪を犯しませんでした。このゆえに主はわたしの義にしたがい、その目の前にわたしの手の清きにしたがってわたしに報いられました。
（詩篇１８：２０－２４）

詩篇を通しての文脈から（ダビデの敵との間の数々の困難）、ダビデは、敵の攻撃から神の宣告の報酬の言及であった可能性がある。ダビデは「私は完璧な人間である故、神が私に報酬を与えてくださった。」と言っているのではない。ダビデは誠実に生きるために全力を尽くしてきたので、神はダビデに報酬として敵との戦いの内に勝利を与えてくださったと言っているのです。

ダビデの詩篇の別の箇所は敵のための弁明の祈である。これらの箇所では、ダビデは個人的な心の内の誠実さに神の弁明を接続している：

主よ、わたしをさばいてください。わたしは誠実に歩み、迷うことなく主に信頼しています。主よ、わたしをためし、わたしを試み、わたしの心と思いとを練りきよめてくださ

い。あなたのいつくしみはわたしの目の前にあり、わたしはあなたのまことによって歩みました。（詩篇２６：１－３）

主よ、正しい訴えを聞き、わたしの叫びにみ心をとめ、偽りのないくちびるから出るわたしの祈に耳を傾けてください。どうかわたしについての宣告がみ前から出て、あなたの目が公平をみられるように。あなたがわたしの心をためし、夜、わたしに臨み、わたしを試みられても、わたしのうちになんの悪い思いをも見いだされないでしょう。わたしの口も罪を犯しません。（詩篇１７：１－３）

このようにして、詩篇１８篇において、ダビデは邪悪な反対派の働きかけとしてではなく、あらゆる状況をありのままに見て神に賛美した。唯一神のみがダビデの内から外までご存知であられ、不当と不敬虔な告発者に対するダビデの防衛のために働いてくださった。

心に誠実さをもって歩んでいないのに、神に宣告していただこうと期待することは出来ない。その反面、誠実な心を持って生きているならば、神からのご褒美である宣告を期待することが出来る。あなたの人生で不当に告発されたり、攻撃されたり、中傷されたような状況を体験されたことがありますか？神は全ての状況の裏に潜む真実をご存知であられ、全ての行動の裏に潜む動機をご存知である。神に宣告を出していただくようにより頼みましょう。あなたの宣告を神の御前から出してくださることを信頼しましょう（詩篇１７：２）。

神はダビデの力：　１８：２８－４０

神はわたしの足をめじかの足のようにされ、わたしを高い所に安全に立たせ、わたしの手を戦いに慣らされたので、わたしの腕は青銅の弓をもひくことができます。あなたはその救の盾をわたしに与え、あなたの右の手はわたしをささえ、あなたの助けはわたしを大いなる者とされました。あなたがわたしの歩む所を広くされたので、わたしの足はすべらなかったのです。（詩篇１８：３３－３６）

異なる状況において、神がダビデを強めてくださった体験を描写するためにいくつかの異なった比喩を用いた。最も珍しいのは、高いところを安全に歩く女鹿の（後ろ足）比喩であった。ダビデは、鹿が岩やがけの間を非常に優雅に効率よく確実に走り回ることが出来るということを参照している。変動する地形も振り切り、高所な山の絶壁にもおびえることも無い。低地を横切る時と同じ足取りで高所も確実に安全に横断する。

人生の歩みは決して滑らかで容易な道ではない、むしろ不揃いであり、不確かであり危険に満ちているということをダビデは知っていた。しかしそれでも強めてくださる神の御手が人生の危険な地形を巧みに安全に移動できるように導いてくださることを体験した。

この高所での後足の比喩は、後に預言者ハバククによって、神がハバクク自身の人生の大きな困難を処理してくださるために強めてくださった描写の中にも取り上げられた：

主なる神はわたしの力であって、わたしの足を雌じかの足のようにし、わたしに高い所を歩ませられる。（ハバクク３：１９）

あなたは今、高所の危険な地形を歩んでおられるでしょうか？困難な決断に迫られておられるでしょうか？神に祈るなら、躓き転ぶことがないように一歩一歩導いてくださいま

す。危険な地形を自力で進んではいけません。神はあなたの足を鹿の足のようにしてくださることが出来るお方です。神は人生の危険な通り道に安全をもたらしてくださるのです。

神はダビデの救い主：　１８：４１－５０

ダビデは締めくくりの一節で、ヘブライ語の「救い」という言葉を三度用いている。それは霊的救いを指しているのではなく、むしろ、人生の試練や困難からの救出を意味している。まず、敵について述べている：

彼らは助けを叫び求めたが、救う者はなく、主にむかって叫んだけれども、彼らに答えられなかったのです。（詩篇１８：４１）

はじめに、神との関係が存在しない場所に神が突然「現れ」てくださると期待することはできないと述べ。次に、ダビデは自信の人生において体験した神の救いの働きを指している：

主は生きておられます。わが岩はほむべきかな。わが救の神はあがむべきかな。（詩篇１８：４６）

最後に、ダビデ自身の人生は神の「救出」の人生であるとまとめている。（英語の複数形（salvations）－繰り返し危険から救出されたことを意味している。）：**このゆえに主よ、わたしはもろもろの国民の中であなたをたたえ、あなたのみ名をほめ歌います。主はその王に大いなる勝利を与え、その油そそがれた者に、ダビデとその子孫とに、とこしえにいつくしみを加えられるでしょう。（詩篇１８：４９，５０）**

あなた自身の神との人生を省みるとき、神は何から「救出」してくださったでしょうか？いつ「救出」してくださったでしょうか？現れてくださったでしょうか？進む路を示してくださったでしょうか？立証してくださったでしょうか？戦ってくださったでしょうか？抜け道を備えてくださったでしょうか？神があなたの人生で働いてくださった全てを称えるために、あなた自身の「救出の詩」を書き記される機会ではないでしょうか？

ダビデの人生の詩の教訓：

１．人生は試練に満ちている。「神の御心にかなう男」でさえも、日々混乱の中に生きていた。**「正しい者には災が多い。しかし、主はすべてその中から彼を助け出される。」（詩篇３４：１９）**

２．あなたの試練に神に介入していただく。神は、あなたと共に人生を歩みたいと願っておられる。**わたしは悩みのうちに主に呼ばわり、わが神に叫び求めました。主はその宮からわたしの声を聞かれ、主にさけぶわたしの叫びがその耳に達しました。（詩篇１８：６）**

３．神のご性質を祝う。神があなたの人生に現れてくださったとき、神を称え、あなたの人生に働いてくださった偉大なみ業を声明しましょう。**このゆえに主よ、わたしはもろもろの国民のなかであなたをたたえ、あなたのみ名をほめ歌います。（詩篇１８：４９）**